



S S T K

社会福祉法人 埼玉のぞみの園

# 法人だより No.20

領価 50円

編集人 埼玉のぞみの園法人本部 埼玉県深谷市本田3343 編集責任者 理事長 山崎勝  
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 埼玉県川口市芝新町15-9アステール藤野1階



## 埼玉のぞみの園設立40周年を迎えました

大きな事故もなく今日を迎えることができましたのも

皆様方のおかげとこころより感謝しております

「困っている人が困らないようにしよう」を

合言葉に

無謀とも思えるチャレンジをして

今日に至りました

これからの福祉政策は

さらに厳しい状況におかれると見込まれますが

福祉を支える基本は「人」だと信じます

どうぞ今後ともご指導の程

宜しくお願いいたします



すべては原野から  
始まりました...

埼玉のぞみの園

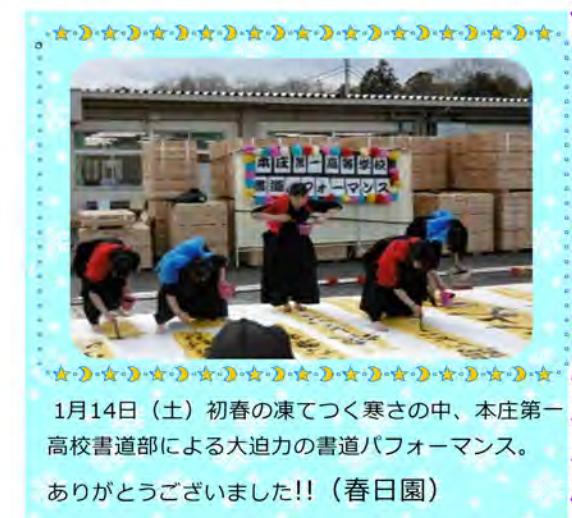
「社会福祉法人は公共の負託にこたえる義務がある」「困っている人が困らないようにしよう」を合言葉に以来幾つかの事業を起し、無謀とも思えるチャレンジを幾度となく経験し今日に至りましたが、その間、大きな事故もなく無事に来られたことに大変感謝しております。



身体障害者授産施設として30名定員で春日園は誕生しました。養護学校卒業者が大半でしたので、利用者も職員も若い方が多くて毎日賑やかに過ごしていた思い出があります。

この四十年の歩みの礎となったことは、熊谷養護学校を卒業する生徒達の進路を何とかしなければいけない。彼らの働く場の確保と安心した生活を作らねばいけない。という親の会を中心とした熱い想いと活動、またそれに答えていただいた多くの埼玉県民のご理解とご協力により、昭和五十二年一月十二日、渡辺美智雄厚生労働大臣から社会福祉法人の設立認可をいただきました。このことを私たちは決して忘れてはいけません。

社会福祉法人埼玉のぞみの園  
理事長 山崎 勝



1月14日(土)初春の凍てつく寒さの中、本庄第一高校書道部による大迫力の書道パフォーマンス。ありがとうございました!!(春日園)

### 土地一坪運動

ご協力者様

順不同・敬称略にて御容赦願います。  
平成28年11月5日平成29年2月  
※平成29年3月1日現在

石崎幸寛 石崎暢夫  
谷中恭子 久松裕  
杉田浩 大沢美知子  
渡辺サユリ 長崎宏士  
高橋秀規  
深谷市手をつなぐ育成会 梶山實

新施設建設のために使用させていただきます。  
八、一三一、九〇四円  
(平成29年2月末日現在)

現在の「寄付額



深谷市戸森団地自治会様より  
お神輿をご寄附いただきました  
とても立派なお神輿で、法人だけではもったいない、多くの方に喜んでいただければ...と  
貸出をさせていただく事になりました。  
ご希望の団体様は法人本部までご連絡をください。和太鼓もご用意。本当にありがとうございました。大切にいたします。

### 後援会

ご協力者様

順不同・敬称略にて御容赦願います。  
平成28年11月5日平成29年2月  
※平成29年3月1日現在

茂呂敏行 吉野教子  
新門峯子 鎌上一秀  
渡部庄一 望月光明  
有限会社大久保電気  
角田海草店  
株式会社関口商店  
妻沼つくし作業所保護者会

(年額) 一口：千円から  
※各施設にて随時受付。

ご賛同いただけます方は、  
何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 第2回 春日園 アートフェスティバル

日時:3月25日(土) 13:00~16:00  
場所:深谷市本田3126 春日園

- ステージイベント: プロパフォーマンス「だっせん」さんに来ていただきます
- 喫茶コーナー: あま〜いお菓子 + 飲み物が100円で!
- フォトフロップス: みんなで不慮の国の登場人物になってみよう!
- 作品展示: いろんな作品を来しんていってください☆
- 福祉機器体験: WHILLの最新車椅子が体験できます

キッズダンス(Hot Wave)のパフォーマンスや 地域の方の作品展示  
手作り作品コーナーも予定しています。ご来園お待ちしております。  
お問い合わせ:048-577-6661  
春日園ブログ: <http://plazarakuten.co.jp/kasugaen/diary/>

### 法人「ご寄付

ご協力者様

順不同・敬称略にて御容赦願います。  
平成28年11月5日平成29年2月  
※平成29年3月1日現在

小泉良子 本木勇之助  
金野綾子  
社会福祉法人幸仁会  
社会福祉法人幸寿会  
税理士法人サム・ライズ  
高橋自動車整備工場

福祉の向上のために使用させていただきます。



3月1日より、解体工事が始まりました。ここまでこられたのも皆様のお蔭です!

### ▼入札結果のお知らせ

工事名: (新施設建設用地)  
旧松寿園建物解体工事  
入札日: H29年2月17日  
入札場所: 春日園2階会議室  
落札価格: 一八、九〇〇千円税込  
落札業者名: 古郡建設株式会社



これからの福祉政策等は、さらに厳しい状況に置かれるだろうと考えています。しかし、福祉を支えるものの基本は昔も今も「人」であると信じております。本法人には未来を託せる人材がおります。応援してくださる皆様方がおります。未来永劫「憐みでなくお互い人として幸せになること」を目指して今後ともご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。



建設中の様子



販売活動をする保護者

### 法人が設立するまで

#### 親たちの熱い願いから…

熊谷養護学校を卒業する生徒たちの進路を何とかしなければ…という熊谷養護学校親の会（今の熊谷特別支援学校）PTA関係者と埼玉県肢体不自由児者父母の会を中心とした熱い活動、またそれに答えた埼玉県民の理解と協力により昭和52年1月12日、社会福祉法人の認可を当時厚生労働大臣であった渡辺美智雄氏よりいただきました。

### ワカメを販売して その収益金で設立

資金捻出方法を議論する中で、普段使うワカメなら味噌汁に入れるなど毎日消費されて販売回転もいのではないかと？と障害児の現状を説明しワカメの販売協力を訴えました。

埼玉県市町村長会も積極的な賛意をしめされ、3年間にわたるワカメ販売は1100万円の収益となり、自己負担額の礎となりました。



竣工式

当時、熊谷養護学校の校長（法人元理事）であった本木勇之助先生の深い理解と尽力そして、市町村長会、ワカメ購入を支持してくださった企業様、またお一人お一人のご購入いただいた皆さまの温かい心から、施設建設の運動は順調に進められ、法人設立が叶いました。ただし、この間活動した保護者たちは、ハンディキャップを持ったお子さんを抱えながら、毎日、早朝から夜遅くまでワカメ販売や設立活動をする…という大変なご苦労があった様です。

#### 建設用地について

当時熊谷養護学校の校医であった飯田正太郎先生がご理解を示され、現在の深谷市本田に土地を所有していたことから、何とか建設用地として利用できないかと旧川本町と調整をおこない、用地の確保ができました。

#### 処遇について

「施設職員として恥ずかしくないよう勤務しよう」

「利用者のためにという思いやりに基づく相互扶助と温かい意志の疎通」

当時の報告書に右記のような文言が見られ、法人設立時から変わらない埼玉のそみの園の利用者や保護者の立場にたった処遇姿勢が垣間見られます。

#### 授産作業について

スクールバックやエプロンの縫製、イチゴ・シイタケ栽培、養蜂等いろいろな仕事に挑戦してきました。農業については、職員の知識不足や身体障害をもつ方が畑へ入ることの物理的な難しさから長続きしなかった経験が、後に第2春日園トマトハウス建設につながったと考えます。

#### 今後も作業開拓・商品研究を

あきらめません！



昔から作業を頑張っていました



シイタケ原木栽培の様子



現在のトマトハウス栽培の様子

### 設立の思い出

#### 久松貞子理事

春日園の設立にかかわった一人として記憶の一部をお話しさせていただきます。

授産施設春日園が入所者15名で出発して40年…春日園は希望の家でした。一人ひとり異なる障害を持つ利用者、当然ニーズも多様となる中ですでに働くことに関心をよせた子もおり、春日園では働くことの意味を重視、ニーズに応える努力を惜しみませんでした。その精神が今見る堅実な発展へと続いているのだと思います。

当時熊谷養護学校は第一回目の卒業生を輩出する時期に来ておりました。

我が子の進路を目前にして悩みました。個々の立ち話から学校全体の話し合いとなり、時には他県の関係施設を見学させていただき、利用者の様子を見た職員の話も聞いたりして、真剣に取り組みしました。

ようやく親たちの望む施設像がつかめてきたころ、今は亡き飯田正太郎先生が設立代表を引き受けてくださいました。

やがて専門委員会を組織して、県庁への陳情・用地の確保へ動き出しました。設立基金に窮した私たちは、すでに取扱い品目にワカメを有力視、素早く販売に入ることができました。

ワカメと設立趣意書を携え連日のように、市町村役場・事業所等へ訪問、障害児を理解していただきたいと、当時おかれていた現状を訴えました。定価より高値で買ってくださる方、定期的に大量注文してくださった事業所もありました。大宮市役所を訪問した時のことです。市長みずから対応していただき、私たちの陳情を聞いてくださいました。沈黙のうち、市長から「この運動は皆さんには重すぎます。市町村会に提出してみましよう。まかせてください。」とおっしゃられ、まさか夢かと思いました。

後日、自己負担金の一千万円をいただきました。

この運動を通して、皆様からいただいた数知れない程のご厚意に私たちは沢山のことを学ばせていただきました。



左から久松理事、山崎理事長、杉田理事。

新聞やテレビでも取り上げられる様になり、ある日、某テレビ局が一日中カメラを回して取材してくれたので、翌朝のニュースを楽しみにしていました。放映されたのは数分もあっただけでしょうか。嬉しいやら可笑いやらで、久しぶりに笑いました。

今、法人が取り組んでいる親亡き後の問題は、私たち障害者を持つ家族としては避けられない現実です。

近頃、保護者の高齢化・死により健全な生活を送れなくなった利用者も直面し、特に重度者に危機感を抱いた埼玉のそみの園は、家族や当事者の要望をまとめ施設建設に踏み切り奮闘中です。何卒、ご支援ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

#### 杉田伶子理事

設立して40年、埼玉のそみの園の関係施設は大きく発展しました。これも応援してくださる皆様方のお蔭と心から感謝いたしております。

今は亡き飯田正太郎先生の言葉に『我々は求める前にまず努力』この言葉を心に、養護学校のPTAとして施設設立運動に加わりました。当時、本木勇之助先生の大きなご理解のお蔭で、学内でワカメの販売活動をさせていただけ資金作りをいたしました。

本木先生は、現役を離れてからもいつも施設のことを心にかけて応援してくださいました。本当にありがとうございました。

春日園も改築して3年になります。

利用者も明るい施設で快適に過ごしております。これも職員の手厚い指導のお蔭と感謝いたします。

山崎理事長を中心にも笑顔を見え、利用者のために努力する姿を見ると、先々の明るさが見えるように思います。今後とも埼玉のそみの園にご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



『春日園は希望の家でした…』保護者・先生・市町村会・ワカメをご購入してくださった方など多くの皆様の善意で設立した法人です。（写真は旧春日園）